

産から学へ

宇都宮大学地域共生研究開発センター

Vol.5

パスキン工業株式会社インタビュー

日 時：平成22年9月27日(月)

場 所：パスキン工業株式会社・本社

インタビュー対象者：代表取締役社長 佐藤 節 氏

コンサルタント事業部

次長 藤江 悦夫 氏

インタビューアー：荘司准教授、佐々木CD

会社概要

社 名 パスキン工業株式会社
創 業 昭和30年10月1日
資 本 金 8,400万円
年 商 12億円 平成21年度実績
本 社・工 場 栃木県宇都宮市野沢町640番地の4
今 市 工 場 日光市瀬尾984番地
代 表 者 代表取締役社長 佐藤 節
従 業 員 数 72名(2010年12月現在)
U R L <http://www.passkin.co.jp/>



佐藤社長(左) 藤江次長(右)

事業概要についてお聞かせいただけますか。

佐藤社長 創業当時は、コンクリートブロック(建築用)の製造からスタートし、下水道マンホール、道路製品等といったコンクリート製品の製造が当社の基幹業務でした。その後、社会のニーズに答える形で、「測量」、「地質調査」、「設計」と事業を拡大し、製品事業部とコンサルタント事業部の2つの事業部体制となっております。現在では、雨水を地下に浸透させるハニーマンホール、バリアフリーに対応した製品などの製造、GISや新しい技術を導入しての建設コンサルタントにも力を入れています。



ハニーマンホール設置例(雨水浸透枳・雨水浸透側溝)

製品を製造することの続けながら、今まで築き上げてきたものを維持管理する事へ業務がシフトしている状況なのですね。



下水道情報管理システム
 【GEO-PASTEM 商標登録】

佐藤社長 そうですね。これからは維持管理の時代です。弊社では維持管理のツールとして、GIS(地理情報システム)を導入して、地下埋設物の管理などの上下水道システム、道路や河川の管理システム、小さな公園から大きな公園まで管理する公園管理台帳システムなど、システム開発やデータ構築をしております。特に、GISシステムにタッチパネルとコインコピーの装置を組み合わせ、市民の方が簡単に施設図(地図)を検索閲覧し印刷できる、下水道情報管理システムを自治体様に納入し、大変好評を頂いております。また、GIS関係のデータを大量に扱うため、個人情報適正に管理する体制(システム)のため、プラ

イバシー・マークの認証を得ております。建設コンサルタント関係で取得しているのは、県内でおそらく四、五社なので珍しいです。

今後の企業の方向性については、 どのようにお考えですか？

佐藤社長）やはりGIS部門に力を入れていくことになると考えています。また、新しい技術の導入として、MMS（モービルマッピングシステム）は、車で走りながらレーザーを360度に発射し、見えるものは全部測量してしまうシステムです。現地のリアルな情報を、点の集まりで三次元の座標として収集し、パソコン内に格納して、距離や角度の測定をすることができます。MMSと一緒に地上型3Dレーザースキャナーを併用することで、MMSの弱点である車が侵入できない場所、建物の裏側の計測などに対応することができます。地上型3Dレーザースキャナーは私どもの業界（県内）では現在のところ二社しか持っていません。技術的には最先端の機械になります。

藤江次長）当社では、MMS、地上型3DレーザースキャナーとGISを結びつけて、既存の業務から新たな業務に対して、お客様にどのように活用してもらえるか、ご提案をさせて頂いております。これらのシステムは、人が容易に近づけない危険な場所の計測、図面が無い古い建物や施設の計測、交通量の多い場所の計測、パソコンの中に現地を3次元でリアルに保存し、現地に行かなくても瞬時に取り出す事などができます。これからの測量の概念が変わってしまう、無限の可能性を秘めたシステムです。ただ単に2次元の図面を作るためでなく、今までにない面白い使い方ができるのではと楽しみです。当社は測量からGIS、そして3次元計測へと進み、新たな分野へ飛躍していきたいと思っています。



MMS（モービルマッピングシステム）



宇大・峰が丘講堂の内部3D計測

本誌を読む学生に向けてお話を頂きたいのですが、 インターンシップ制度などはあるのでしょうか。

佐藤社長）地域に根付く企業の社会的責任として毎年募集させてもらっています。昨年は宇都宮大学の学生にも参加頂きました。一週間程度の短い期間ですので、専門的な業務を習得するまでにはいきませんが、会社がどのような場所なのかを肌で感じ取ってもらえればと思います。

こんな学生に入社してほしいというお考えは ありますか？

藤江次長）今年の新卒学生さんの採用については、「成績関係なし、大学関係なし、面接でマニュアル通りの受け答えでない、何よりも本人のやる気」を選考基準にしました。最終的には「どこの部署でも結構です」という積極的な姿勢を持った学生さんを採用しました。

佐藤社長）どの学生さんも知識は十分にあると思います。やはり、コミュニケーション能力があり、積極的な姿勢を持った学生さんは目立ちますし、ぜひ当社に来てもらいたいですね。当社は零細企業なので、社長である私が真っ先に動き、その後部下が続くようなフットワークの軽い企業です。日頃から色んな部署に顔を出して、声をかけたり、様子を覗いたりしています。小さな企業は小さいなりに家族的な雰囲気を大事にしています。ここで新社会人としてチャンレンジしたい学生さんには、何をするにも、一から責任をもって取り組める環境に面白みを感じて欲しいですね。技術だけでなく、営業もできて、色々なことが習得できます。そのことをチャンスだと捉えて頑張してほしいですね。きっと社会人として大きく成長できると思いますよ。

宇都宮大学 地域共生研究開発センター 産業交流振興会
宇都宮大学 地域共生研究開発センター 広報室

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7丁目1番2号
E-mail: chiiki@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

TEL 028-689-6316 / FAX 028-689-6320
URL: <http://www.sangaku.utsunomiya-u.ac.jp/chiiki>